

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成20年2月25日
事業所名	グループホーム悠遊荘
事業所番号	2372300752
記入者名	職名 管理者 氏名 伊里 淑江
連絡先電話番号	0561-41-3333

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム悠遊荘
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	瀬戸市品野町8丁目221-1
記入者名 (管理者)	伊里 淑江
記入日	平成20年2月25日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は「介護する人)ではなく「生活のパートナー」と理念を定めており、管理者は具体的な言葉にして日常的に職員に伝えて話し合っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自宅にいたように四季折々の地域行事に参加したり、主催したりして町内会の方々と仲良く交流をはかっている。美容院もご家族がお連れできる利用者には行きつけの所を利用して頂いたり、希望によりお墓参りも命日に行かれている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・秋祭り(地域主催)餅拾い・盆踊り大会(グループホーム主催)毎年7月最終土曜日・消防訓練(グループホーム主催)町内の方々も一緒に・初詣に町内の神社へ参拝・町内の方がゆずを自主的にくださる(ゆず風呂)・町内の方が野菜を持ってきて頂く。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会の会費納入し忘年会、新年会、氏子の準備に管理者が参加して交流を図っている。年間通して町内の方が作られたお米を配達して頂いている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の会費納入し忘年会、新年会、氏子の準備に管理者が参加して交流を図っている消防訓練では町内会の方々も参加され本番さながらの救助訓練も行われた	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	町内会回覧版にて認知症介護講座のお知らせをするた め、地域の方の参加も多い。①認知症を知る(H19年 3月24日) ②認知症は恐くない。音楽療法、健康体 操(H19年11月3日) ③認知症は恐くないN0,2介護 劇、認知症の方の体操(H20年3月29日)	○	③認知症は恐くないN0,2介護劇と人形劇、認知症 の方の体操(H20年3月29日) 予定
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価にて必要な具体的な改善策を、職員会議にて全 ての職員と相談し対応にあたっている。運営者にも 告をし前向きに検討するようにしている。昨年度 見直し項目①研修受講の年間計画を立てる(施設 主催の研修は3回行った) ②応急手当の充実に 関してもAEDの研修を職員が指導を受けた。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている	毎回の運営推進会議の議事録を職員会議で読み合 わせ意見を職員からも出してもらおう。また運営推 進会議委員の意見を会議後に聞いて記録して市役 所に提出し次回の会議に生している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	グループホーム主催のオリジナル体操作成し積極 的な普及を行う。盆踊り大会を主催して心身共に 楽しく健康活動を地域に貢献している (中日新聞に掲載)	○	悠遊荘のもしもしかめさん体操(DVD作成)は高齢 福祉課が保管し情報交換し好評を得ている 平成20年3月29日にはもしもしかめさん体操 を認知症介護講座で利用者が地域の方に披露しま す
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業は社協の依頼で我がグループ ホームにて二名の利用者をお世話し、毎月の相談 員との訪問により最新の情報を得ている	○	後見人制度の利用を勧めた施設利用者があり実現 は難しかったものの学ぶ機会があり貢献できた。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待も含め、毎日のミーティングと毎月の 職員会議で自己報告をする事と警告により防止に 努めている	○	ヒヤリハットノートに記入し自己報告をする事で 再発防止に努めている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いままで利用された介護サービスを聞き、今後ケアの何が必要か、要望などその利用者の情報を最大限に集め、施設の方針を理解していただき、充分な説明をし、納得して契約をすすめる。解約をする際もお互いの話し合いで納得のもとに行う。	○	契約前の介護支援専門員などに問い合わせで情報提供を今後も願う。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	係わりが深い職員が利用者の意見を居室などに見えるときに伺い、本音を言って頂けるような時間を作るよう努力している		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・金銭管理は月末の請求書の郵送で同封しているが、利用者の健康状態で急な変化のある時は、個人的に直ぐ電話にておしらせし施設に来ていただく事もある。また個人記録にも細かく変化を記録して、家族の訪問時やケアプランのサイン時に熟読していただき会話にて報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の方もメンバーにみえて意見を盛んに言われる機会がある。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見交換行う。常時、管理者が個人的に職員に問いかけ本音を聞くよう努めている	○	事務所にて職員全員に対して、運営者が個人的に本音の意見を聞く時間を作りたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は勤務日でない日も常に勤務表を確認し、利用者の状況と当日の予定にて臨機応変に調整して指示している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	今後、グループホーム同士の見学と研修を進める計画が立っている
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	管理者は相談委員を会から任されリーダー的立場で取組んで学んだ事を、これからも会議などでゆっくり全職員に伝えて生きたい
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	管理者の悩みを十分に聞く時間を充分にとる必要がある。利用者も序所に变化しているため、他の職員のストレスも充分あり、現場を見に来て理解するよう時間を作って欲しい
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	○	時間の許す限り施設にきて一生懸命な職員の様子を見に来て欲しい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(センター方式利用) 本人とゆっくり話しを聞く職員を作り、傾聴して分かった心のうちを全職員が理解し、情報をえて、出来る範囲で受けとめるようにしている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が相談に訪れた際に要望を聞き、管理者は家族に労をねぎらい十分に話し合い、出来る限り受け止める。親族間の人間関係も今後のケアの為できるだけ聞き出すようにしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人的な趣味(買い物)主治医以外の診察(ペースメーカーチェック、歯科)など必要であれば職員が対応するようにつとめている	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前のケアプランによりどのようにサービスを受けていたかなど、以前の事業所から情報提供をもらい、本人と家族と話し合っグループホームでできる事を納得していただきサービスを進めている	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活のパートナーと考える気持ちを忘れず、人生の先輩として、また利用者も残存能力を生かしヘルパー代わりで助けていただいている。	○ 利用者が自主的に食事時間まで居室にみえる利用者に声かけし、手引き歩行して食堂まで誘導していたり、洗濯物を体調の悪い方の居室まで運んでくださる利用者がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化を頻繁に家族と連絡しあい、本人のしたいことを家族にもお願いして支えあっている。	○	グループホームでレクやおやつの時間に楽しく笑える話題を職員が意識的に話して一度は大笑いできる時間を作るよう努力している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の愛情が一番必要であることを常に伝え、施設の介護講座に積極的に参加されたり、家族も職員と外出に付き添うことで本人の様子を客観的に見るよき機会を作っている。	○	花フェスタへ外出、7月の盆踊り大会、体操教室、音楽療法などの様子を見ていただく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から馴染みの方に施設での利用者の様子を話していただき。いつでも施設にて友人や親戚と面会できる事も伝えて頂く。	○	いつでもと言っても9:00~20:00までとする
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が自主的に行う事として、食事時間まで居室にみえる利用者に声かけし、手引き歩行して食堂まで誘導していたり、洗濯物を体調の悪い方の居室まで運んでくださる利用者がある。	○	散歩も組み合わせをよく考え行くようにしている。(筋力レベル、言語レベル、性格の相性)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	急変して救急病院に搬送され退所されても本人の様子を管理者は親戚に報告して頂き、知るよう努力している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買物をしたい、市販の薬を買いたい、お菓子の意向などが利用者のほうからあるものの、職員は認知症を踏まえて意向聞いて行っている。	○ 買物症候群や市販の薬を買いたい依存症もあるため注意して意向聞いている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前のケアプランを知る事や入所後も職員がセンター方式の書式を利用したりして全体で話し合う。また本人にこれまでの事を聞きだす作業も継続している	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人のその日の状態に合わせて過ごすよう管理者は現状を職員から報告してもらい、利用者の様子を総合的に見て管理者が指示を仰いでいる	○ 職員会議において毎月話し合い全員の利用者の現状把握に努めている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に最近の本人の様子を報告しご家族と本人の意向を取り入れながらケアプランを立てている	○ 心安らかに良く暮らす為には家族の協力も不可欠で筋力向上(散歩や体操など)が出来た後、家族と外出など、本人の目標設定をさだめるようにしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の目標で無理のない計画を作成し、できた時や急変した時は期間に限らず見直しをするようにしている	○ 本人のできる事、できない事を書き出し、入所してからできるようになった事をみのがさずケアプランに載せて評価をしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の本人の言動の変化を細やかに個人記録、申し送りの記録に記入をして毎日のミーティングで情報をする。その情報を元に毎月の会議で本人の見直しをはっている	○	出勤した夜勤者に申し送り直ぐにすることで、夜間独りの勤務を安心して行うように努力している
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	権利擁護の利用者は家族に代わりに日用品や衣服、寝具など全部購入を職員が支援相談員から金銭を預かり購入している。家族が出来ないに通院介助も協職員が行うように努力している	○	必要な支援として自宅で補聴器を利用してなく難聴の影響で認知症が進行すると思われる方は、入所直ぐ、ご家族の了解を得て補聴器の手配を施設側が自らおこない残存能力が高まった利用者が3人現在いる
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方々が協力的にボランティア、文化活動(水墨画、日本舞踊、音楽療法、盆踊り)に訪れている。消防訓練も本番さながらで通報から協力して町内会の方々も加わり指導受けている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険外として、他のデイサービスの施設長と話し合い交渉により利用料を決める事となつている	○	本人は希望していたが、現在のご家族がまだ理解を示さず利用はないので今後期待したい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護の利用者は社協の依頼で2名、包括支援センターからの協働で2名依頼を受けている	○	今後看取りまで行う身寄りのない権利擁護利用者のことで細かい事を社協と話し合う必要がある

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	グループホーム協会の中でも情報が入り優れた近隣の医院を紹介して頂いた
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	利用者の変化を訪問時の職員より報告をうけ訪問看護が観察している。その報告書の内容を管理者が家族に報告している。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	医療法人の病院に入院し、連携のとれた医師関係もあるため長期入院にならないよう適切な入院期間となっている
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	医師と職員の能力なども考え慎重に話し合っていく予定です
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	継続して緊急時の対応を寄り深く話し合う時間が必要だ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	次の施設担当者に情報提供を早めに渡す事や、利用者を事前に見に来ていただく事でダメージ防止に努めている。また退所時、本人の住み替えの影響は家族の気持ちも影響されるため本人以上に気配りをして早めに話し合っている		
施設セ金紗				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が勤務採用の際、守秘義務の書面に捺印する。新人で何気なく利用者に話す言葉で失礼な事がある時は、直ぐ管理者が個人的に指導をし、会議でも自主的に反省を述べている	○	ヒヤリハットノートがあり自主的に職員が記入し会議で報告をしている
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知症があつて言われることに統一性はないが、本人の気持ちを汲み取り利用者自身が望む事に添えるように努めている	○	・美容院への要求、食事、おやつの内容、全体の頻度、入浴の件など
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は散歩が好きで、希望があれば天気の良い日は散歩を寒い時でも様子を見て行う。朝寝坊の人、体調の悪い人などはその人のペースでゆっくり朝食されるなど本人の希望に沿うようにしている。	○	入浴を拒まれる方は就寝前に清拭を介助している。朝食も体調に合わせて居室でゆっくり食されるよう見守る
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族が連れて行かれる方はもちろんお願いしている。その他の方は美容院に職員がお連れして気に入った髪型にさせていただいている	○	化粧をされる方は化粧品の在庫がなくなると職員が購入し支払いしていただいている。洗髪後、櫛や化粧品など本人専用のもので鏡をみて自身で整えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立も利用者の意向をきいてバランスよく立てている。食事準備は我が施設の機能訓練の大切な位置感にあり、全員の食事当番が一日に一回ある。もちろん片付けは一日3食とも行う	○	体調の悪い時などは無理しないように促している
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーの好きな方は、個人の品物を用意しておやつ以外でも飲まれる嫌いな嗜好は無理に進めない。	○	施設内はタバコは原則的に禁煙です
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は失禁パンツで夜のみリハビリパンツにするなどの支援をしている。夜間トイレまで大変な方は間に合わない方は居室に簡易トイレ置くなどして最小限の失禁でおさまるように手配している。	○	個人記録に失禁状態を記入する事により適切なパットを利用して、衣服まで汚れないように準備している
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番は毎日グラフにより公平に変わっていく。毎日入浴か陰洗のどちらかを行う。月、水、金、土は入浴の安定した2時間の間に誘導している。利用者に確認して入浴してもらう	○	入浴は湯船にゆっくり一人ずつ入って頂いている
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・ラジオ聞きながら寝る方は他の方に迷惑にならないように利用している。・ある利用者で睡眠剤希望だが、できれば入眠前に温かい牛乳を飲む事で、睡眠薬飲まずに睡眠できる日を作るよう努力している。そのことは職員も支援している。また良く眠れるように、全員の日中のレク充実するようつとめている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の趣味、特技を生かして裁縫で足マット、コースター、雑巾、最近はぬいぐるみを作成した。また計算や迷路、得意な方は算数などで脳の活性を行っている	○	一人ずつのレベルに合せた取り組みして到達感を感じてもらおうよう継続していく


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭入れは自身で持ちさい銭をそこから出される事をしている利用者もある。	○	かばん本体を外出時忘れる方が多いため、職員がまとめて持参して支払いの際に、今後は介助しながらするよう努力する
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別に家族が協力的に毎月命日に墓参りにお連れされる。行きつけの美容院もお連れされる方がある	○	大型の事業車の運転を多くの職員ができるようになる事も外出支援には大切な事です。今まで以上に利用者のニーズにあわせて安心して外出できる機会も増やして行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	以前開催された万博は利用者全員と職員全員で訪れた。最近では花フェスタにご家族も同伴され良き時間が持てました。	○	今後カラオケにお連れしたい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所負担でご希望があれば、家族や知り合いに電話をしていただけるよう支援しています。手紙も利用者か家族宛に書かれて郵送しました。	○	全員の利用者が要求はされませんが、年賀状を送る事や誕生日などに本人が家族へ電話を取り次ぐことも良いかと思えます。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問して頂き、居室に職員がお茶をお出しした際、ゆっくりして頂くような声かけと室内空調を整えている	○	時間のある方は利用者との食事も可能だし、宿泊していただける寝具も用意してある
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は人の人権侵害として行わない。しかし玄関の外鍵は安全のため職員の1～2人の1時間ほどは施錠している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	やむおえない早朝時と夕方の入浴時以外は玄関の鍵はしない。それ以外に拘束しないよう職員に指導している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全員のさりげない見守りと特に利用者の徘徊傾向のある方は気配りが必要です	○	今後も早朝の夜勤者が一人の時間は特に注意する
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	家族の土産が居室にあるお菓子は利用者の誤嚥や認知症のレベルに合わせて施設側が預かる。裁縫箱や洗剤なども居室にあるがあくまでも利用者のレベルに合わせて現在は置いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	新人職員もいままでのヒヤリハットノートや事故報告書を熟読し事故防止を努める。 ヒヤリハットノートに職員自ら記録して、その事故を職員会議にあげ状況を伝え再発防止に努めて検討する	○	今後も全職員はいままでのヒヤリハットノートや事故報告書を会議で熟読し事故防止に努める。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員の連絡網の徹底を再確認し、消防署の救命指導を積極的に参加し学んでいる	○	施設に消防士に来ていただき全職員が応急手当を何度も練習する事が大切です
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練では火災を想定して地域の方も本番さながらの練習にて利用者を避難させるなど真剣に行って頂いた	○	地震や水害に関しても予想をもとに今後地域の方と行いたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	その人らしくを考えるケアに当たり、リスクを承知でケアプランを立てた部分もある為に常に家族との連絡を密にしている (散歩、誤嚥、肺気腫やペースメーカー装着の方、杖歩行での転倒など)	○	誓約書記入（肺気腫やペースメーカー装着の方の散歩や杖歩行の方の食事の片づけ、配膳など不可抗力による事故）
リスク				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	身体はもちろん、精神的な変化も発見したら個人記録に細かく記録し、家族にFAXをして電話などにて連絡している。	○	幻聴、幻覚、作話などの変化は、その後の色々な変化の前兆があり得る為、密に職員に申し送り、家族に連絡するようにしている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋一覧を全職員が直ぐ見る事ができるように事務所にある。	○	服薬時全部飲み終えるまで見守る必要のある利用者がいる。利用者は必要性が理解できず、隠したり、吐いたりされるからです。職員は利用者に分かりやすく効用を話し飲んでもらうように促している
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	腸内細菌を多くする食物や繊維のあるものの摂取で便秘防止に努めたり、体操や散歩、リラックスする歌や雰囲気作りなども気持ちの持ちようも大切な事職員は理解している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者のレベルに合わせて介助します。入れ歯は3食後の洗浄と就寝後の洗浄液で浸水のケアをし、入れ歯ではない方は液状歯磨きなどで、殺菌をし衛生を維持している。		誤炎症性肺炎の防止のためにも、しっかり行うようにしている
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定により変化を職員は把握し、量を調整したり代謝量高まるよう気をつけている。食材の好き嫌いは多少考慮し配膳している。水分は入眠時にお茶のペットボトルを用意している。	○	ペットボトルのお茶は朝回収している。個人記録に7時30分、10時、15時、19時30分と水分補給チェックを継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染マニュアルを作成してある。毎年、インフルエンザの接種は早期に利用者、職員の全員行っている。瀬戸市は結核の罹患率が高いため、研修を毎年参加して話し合う機会を持っている	○	MRSA(+)の入所希望の方が以前あったが見送った経過があり、確かな情報を知り、そのような方もケアできるよう職員の学習が必要です
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	利用者が食事手伝いの前には石鹸で必ずしっかり洗浄するように、職員が見守り準備に入ります。ふきんの殺菌洗浄は毎日行なう。料理時混ぜる時など手袋を使用する。まな板の漂白、排水溝の洗浄も頻繁にしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	平屋木造で普通の家庭の感じで親しみやすく、玄関は鍵はしてないので、町内の方が声かけし収穫した野菜等を持ってきていただける雰囲気です		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・・・歩くと灯りが付くシステム。居間、食堂・・・床暖房が備えてある。食堂・・・光が沢山入り明るいトイレ・・・5箇所あり直ぐ利用できる。浴室・・・ゆったりして広く、手すりが回りにすべてあり安全。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	南の窓が広く眺めが良く、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所がある。	○	共同生活は疲れる為意識して時間を作るように促したい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	契約時に利用者の思いと家族の考えを話してタ ンス、茶だな、仏壇、写真を持参されるなど使い慣 れた物等を置いてある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	朝の掃除により空気のだよみをなくす。室温計に より特に朝、夕の外気温との差に注意している。 そして入浴時に着脱場は特に注意をはらって介助 している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	玄関は上がりかまちがあるが、利用者は工夫して手すりを 使うなど一人で立ち上がり降りする事で自然に鍛えて いる。しかし下肢筋力低下の方はベットにて夜は休み、自身 で置きて夜中もひとりで排泄できるよう簡易トイレを居室に 用意している方もある。トイレ前は夜中明るくしておき、廊 下は歩くとライトが付き手すりを伝いトイレに行ける		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレ、風呂も印を大きくしたり、居室前には本 人の写真を張り、部屋をまちがわないようにして いる。入浴順番、食事当番も壁にはってわかりや すくしている。配膳の際に分かるよう箸も名前が 付いている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	玄関の前にはプランターがあり四季の花を植え水 遣りをしている。西の畑では野菜作りをし収穫し ている。ベランダが広くて南窓で光がはいり日向 ぼっこができる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)